

# 港南造形タイムズ

第42号

## “加賀・金沢” 修学旅行報告



今回の修学旅行の感想を一言で表すならば、「密度が濃かった。」に尽きる。

1年のとき、先輩が金沢に旅行に行ったと聞き、私は意外に思っていた。修学旅行で金沢に行くということ自体が他校ではあまりないことだと思ったからだ。しかし私は京都や奈良といった古い町並みが好きだったし、伝統工芸の一端に触れる機会は普通ないので、この高校らしい旅行先だなという程度には楽しみだった。

しかし実際体験してみれば、次から次へと濃いイベントの連続で、金沢以外では考えられないという思考に陥った。その中でも特に印象に残った2つの体験がある。

一つは、九谷焼の上絵付け体験だ。皿の上に呉須という黒い絵の具で線描きをし、そこに被せるように色をつけていくのだが、これがまた難しい。筆を皿につけてしまうと線画が滲んでしまうし、かといって浮かせ過ぎると絵具が乗らない。ほんの小さな皿で、しかもそう細くない絵に着色するのでさえここまで苦戦したというのに、そのあと見学した資料館、その周りにあった店などにあった壺や大皿には、比べものにならないくらいの綿密な線と、その線に沿った華麗な着色が施されていた。私は改めて伝統工芸の凄さと、伝統工芸することの難しさを思い知った。

二つ目は、3日目の金沢美大に行ったことだ。広い学内の設備を見学させてもらい、学部の説明などを受けた。また、講義も受けさせてもらった。講義というので、椅子に座って先生の難しい話を聞きノートにメモするようなものを想像していたのだが、実際は、本来なら美術館などに飾るような価値ある工芸品に直接触れたり見たりしながら美術史を教えていただいたり、ダヴィンチに思いを馳せながら作品を模写したり、と勉強嫌いな私でもこの授業を受けたいと思うほど充実したものだ。

勿論他にも、ゆのくに天祥で味わった豪勢な海鮮料理も、これこそ金沢に来た意味があったと実感できた。量もふんだんにあり、刺身に鍋に小鉢に天ぷらにと、大阪ではなかなか味わえない贅沢を堪能した。

さらに金沢21世紀美術館や、兼六園、白川郷と挙げていけばキリがないほど目が回る量の体験を重ね、私は今回の修学旅行は「本当の意味での」修学旅行になったと思っている。この経験をこれからの自身に反映していきたい。

<2年2組 西村彩花>

## 第20回産業教育フェア

10月20日(土)、21日(日)に弁天町のオーク200で産業教育フェアが開催されました。約10000人の来場者があり、陶芸部、ファイバーアート部、デザイン同好会、版画部が作品の販売を行い大変好評でした。

今回、私は陶芸部として産業教育フェアに参加しました。普段の制作中心の活動では体験できない「自分でつくったものを売るという活動」をして、とても多くのことを学びました。いつも制作する作品は、「人に使ってもらおう」ということを考えずにつくっていたのですが、実際に販売し、買いに来てくださった方とお話することで、自作品がどうしたら気に入っていただけるか、よくなるかということが分かりました。これからの制作に生かしていきたいと思います。

また、他校の展示も興味深く拝見し、楽しむことができました。来年もぜひ参加したいと思います。

<2年2組 阿野友花>



## 平林祭り報告

私達クラフト部、漆部は10月21日(日)平林祭りに参加してきました。平林祭りは木材産業が盛んな平林で、毎年行われている木材に関連したお祭りです。そこで、私達港南造形高校は糸のこ木工教室をしました。木を糸のこ盤で動物の形に切って、やすりがけをし、台をつけて完成となる内容です。120名を超えるたくさんの方が参加してくださったので、とてもやりがいがありました。地域の子どもたちも楽しそうにやってくれてよかったです。

平林祭りでは、他にもいろいろなイベントがありました。今年は糸のこ木工教室に加えて、自分たちでつくった木のおもちゃも展示しました。これはウッドスタートのためにつくったおもちゃです。ウッドスタートとは、生まれた赤ちゃんに最初に木のおもちゃをプレゼントしようという企画です。夏休み中から、取り組んできました。うまくでき、発表できてよかったです。会場では、コンクールとして、人気投票や審査も行われ、表彰もされました。

<2年3組 澤田舞鈴>

